

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Participant mothers' attitudes toward genetic analysis in a birth cohort study

和文タイトル: 出生コホートに参加した母親における遺伝子解析に対する意識

ユニットセンター(UC)等名: 千葉UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Human Genetics

年: 2021 月: 1 巻: 頁:

筆頭著者名: 山本 緑

所属UC名: 千葉UC

目的:

エコチル調査では環境要因が子どもの健康に与える影響を調べるために、血液等の生体試料を保管している。今後実施する予定の遺伝子解析について適切に説明を行うためには、エコチル調査に参加している方々の意識を把握することが重要と考えたため、母親の遺伝子解析に対する意識を調査し、関係する要因を調べた。

方法:

エコチル調査千葉ユニットセンターに登録されている5,176世帯にアンケート調査票を郵送し、母親から得られた回答1,762件(34%)を分析した。「遺伝子解析」や「遺伝子データを他の医学研究と共有すること」の有益性についての態度と、母親の年齢、教育年数、遺伝学用語の知識、研究機関への信頼感、情報管理への懸念、家族の慢性疾患の有無がどのように関連するかを調べた。

結果:

大半の母親は遺伝子解析や遺伝子データを他の医学研究と共有することについて有益と考えていた。遺伝学用語になじみが薄いグループでは、遺伝子解析に対して曖昧な態度を示す人が多い傾向があった。教育年数により遺伝子解析への否定的態度に違いがみられた。遺伝情報管理に不安を感じているグループでは遺伝子データを他の医学研究と共有することに否定的な人が多い傾向があった。研究機関への信頼感が高いグループでは遺伝子解析やデータの共有を有益と認める人が多い傾向があった。

考察:(研究の限界を含める)

この研究では出生コホート参加者の母親について、遺伝子解析に対する否定的または曖昧な態度と関係する要因を明らかにした。遺伝子解析や他の医学研究とのデータ共有が有益と理解していただくためには、基本的な遺伝学について知識を深めてもらったり、遺伝情報管理の不安に応えるような取り組みが必要と考えられた。さまざまな背景を持つ人々に遺伝子解析を説明するにあたっては、柔軟で多様な取り組みが求められる。研究の限界として、調査票の回収率が低かったため、研究に対して好意的な母親の回答が多いなど、母親全体の傾向を正確に把握できていない可能性が考えられる。

結論:

この研究の結果から、出生コホート研究に参加している方々に遺伝子解析やデータ共有の意義について理解を得るためには、信頼を得ることが大切だけでなく、遺伝学や個人情報管理の方針について知っていただくこと、さまざまな背景の人に伝わるような説明方法の工夫が必要であることが示された。